

伝統的民芸品一覧表

品名	産地	企業数 (技術者数)	主要製品	摘要
高田焼	八代市・宮原町	3(5)	茶道具、花器	
小岱焼	荒尾市・熊本市 南関町	5(10)	"	
一勝地焼	球磨村	1(1)	"	
水の平焼	本渡市	1(3)	"	
丸尾焼	"	1(1)	"	
広山焼	"	1(2)	"	
榎津塗	富合町	1(1)	重箱、弁当箱、膳	
肥後餅	熊本市	1(10)	着物地	染め織りなど専門の技術者に分れている。
天草更紗	本渡市	1(1)	帯地、テーブルクロス	
竹細工	県下各地	30(30)	ざる、かご	
来民うちわ	鹿本町	3(10)	組うちわ	技術は竹割り、紙張りなどに分れている。技術者は各部門に分れている。
人吉の釣竿	人吉市	2(15)	一本竿、継竿	
芦北の和弓	芦北町	1(3)	肥後三郎銘	
肥後象嵌	熊本市	9(40)	飾身具	
川尻刃物	"	7(10)	庖丁、農器具	
天草刃物	天草各地	9(11)	農器具	
川尻桶	熊本市	6(15)	すし桶、風呂桶	
宮地手すき和紙	八代市	1(1)	障子紙	
山鹿灯籠	山鹿市	11(70)	金灯籠、屋敷造り	現在「伝産法」指定申請中。
球磨川硯	人吉市	1(1)	硯	
八代の花むしろ	八代市・八代郡	3(12)	花むしろ	技術者は各部門毎に分れている。
木葉猿	玉東町	1(1)		
きじ馬・花手箱	人吉市	3(10)		
人吉の羽子板	"	1(1)		
おきん女人形	八代市	2(2)		
板角力	"	2(2)		
お化けの金太	熊本市	1(2)		
宇土の張子人形	宇土市	1(1)		
肥後ごま	熊本市	1(2)		

(ウ) 織物(染色品を含む)
県内の織物は肥後餅が一つ残って

(イ) 手工性
その生産工程の大部分が手工的生産で、つまり製品の大部分が手作業で作られたものです。

(イ) 漆器
肥後の陶器の歴史は古く、高田、小岱焼は今から約三百年前から、また、一勝地、水の平焼は江戸末期頃から作られています。丸尾、広山

(イ) 漆器
熊本でただ一つの漆器は榎津塗です。江戸末期から始められたといわれており、全盛期には木原山のふも

県下に見る伝統工芸品の現状

独特の民芸品が生れてきました。このように伝統的民芸品は、私たちの生活とともに歩んできましたが、十九世紀後半から機械による生産が一般化されるに及んで、これら伝統ある民芸品の生産が急減しました。しかし、このような時代になっても、われわれの生活が日本人として日本の風土の中で営まれていく限り、伝統の技術は滅びず継承されて今日に至ったわけです。つきに、伝統的民芸品の一般的な特質についてのべてみます。

(イ) 漆器
わが国において、古くから受け継がれた技術によって生産されたもので、外来の機械による近代的な生産品ではありません。

(イ) 手工性
その生産工程の大部分が手工的生産で、つまり製品の大部分が手作業で作られたものです。

(ウ) 織物(染色品を含む)
県内の織物は肥後餅が一つ残って

(イ) 漆器
肥後の陶器の歴史は古く、高田、小岱焼は今から約三百年前から、また、一勝地、水の平焼は江戸末期頃から作られています。丸尾、広山

焼なども初めの頃はカメ類を作っていました。現在では陶器を焼いています。各窯とも茶道具、花器などを主として焼いていますが、ほとんどが家内工業の域をでないため生産量が少なく、県内の需要をまかなうのが精一杯の状態です。

(イ) 漆器
熊本でただ一つの漆器は榎津塗です。江戸末期から始められたといわれており、全盛期には木原山のふも

天草更紗は、型紙捺法で染められています。昭和の初め頃には県下に二十四、五軒の工場があつて海外にまで輸出されていきました。素地は丈夫な木綿で、模様も素朴なもので、近頃では上ツ張りや壁張り用として都会人の人気を得ています。

(イ) 漆器
熊本でただ一つの漆器は榎津塗です。江戸末期から始められたといわれており、全盛期には木原山のふも



木葉猿に生きる 永田 礼三

木葉の里に生まれ、木葉猿づくりを始め、外に出て見て始めて、良さが解るようになり、後継ぎもいなかったのを機に、父と共に木葉猿づくりに励んできました。あれは十年前の丁度今頃、父が病床の身となり、責任感をひしひしと感じたものです。毎朝近所の小、中学生を集め、裏庭で剣道のけいこに励み、その後は終日粘土をこねて、あまり物を言わず、むつりと仕事場に座っていた父だったが、粘土を指先でこねてつくる「ひねり」の秘伝や、剣道七段の教士という肩書きを持つ父から、武芸の精神をも受け継いだ気がします。今から千三百年前、「虎の歯」の里に侘住していた落人が夢枕に立った老翁の言葉によって奈良の春日大明神を祭って木葉山の赤土で祭器をつくり残った土を捨てた所